

60. 7. 10. 土曜日

交通安全 よろしく

舞鶴・みずなぎ
学園生呼びかけ

ドライバーの皆さん、事故に気をつけて。知恵遅れの十八歳以上の人たちが学ぶ舞鶴市鹿原、社会福祉法人「みずなぎ学園」(藤村友博園長、九十九人)の園生三十一人が、十日、学園近くの国道27号で、交通安全キャンペーンをした。

二十日から始まる夏の全国交通安全運動に先がけて交通安全マナーの確立を、と同学園が舞鶴東署や舞鶴東交通安全協会(本河康子会長)にはたらきかけていたもので同署の塩田末光署長ら八人の署員が協



手づくりのペーパーフラワーを渡し、安全運転を呼びかける園生

力。「スピードは控えめに」「安全ベルトを締めて」と願いを書いた園生手作りのペーパーフラワーを贈られたドライバーは「安全運転に努めます」とニコリ。

1985年(昭和60年) 12月 1日

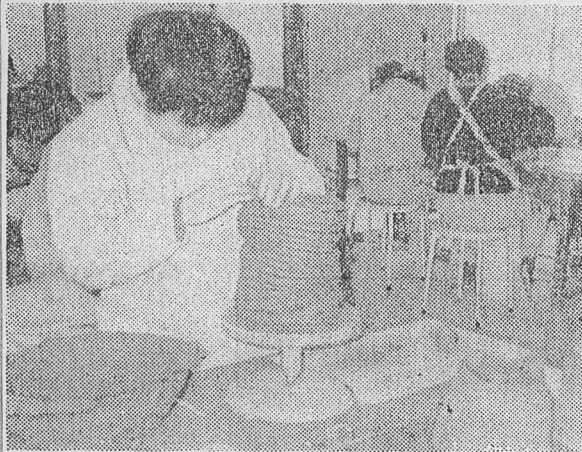
日曜日

享年

素朴な魅力が好評

舞鶴「みずなぎ学園」

園生手作りの陶器出荷



陶器作りに熱中する園生ら
＝舞鶴市鹿原の「みずなぎ学園」で

舞鶴市鹿原の社会福祉法人「みずなぎ学園」(藤村友博園長)では、心身の障害を乗り越え自立更生を目指す園生たちが陶器作りに打ち込んでいる。製品は手作りのため、市内の花屋さんなどに出荷しているが「形が独創的でおもしろい」となかなか好評だ。

以前は電動ろくろを回し、一定の形をした植木鉢を作っていたが、重度の知恵遅れの園生が増え、機械の操作が無理になった。そこで、三年前からは手作りに改めた。現在十九人が陶芸班として作業に従事している。同学園の植田泰正指導員(三十三)らの説明では、園生に粘土を渡し、花器、皿、茶わんなどを気ままに形を作らせている。ひも状にした粘土を積み重ねて、縄文式土器みたいなつぼを作る人もいれば、粘土に指を押しつけては、風変わりな模様をつける人も。あとは指導員らが色付けの上薬を塗り、電気がまで焼き上げる。

この陶器作りは、園生の指先の訓練になるうえ、物を作る喜びが社会参加への自信になる。製品はボランティア活動に熱心な市内の花屋さんに出荷したり、商店街の催しの際、コーナーを設けて売り出している。「陶製品にない素朴な魅力がある」と好評だ。